

東海地区 現代俳句協会 会報

第78号
令和5年6月31日
東海地区
現代俳句協会

社団法人化で変わるもの 変わらないもの

一般社団法人現代俳句協会
事務局長 水野二三夫

本年度より、現代俳句協会は、任意団体から一般社団法人へと衣替えをしました。要は、法人格を有する世間並みの協会団体になった、ということです。法人化の大きな目的は、協会の資産保全と社会的信用の担保及び組織活動の活性化を図ることです。

手続論的には、任意団体が解散決議をして、その全ての財産、権利・義務及び会員は、新たに設立された社団法人に継承された形をとっています。任意団体であった協会時代の規約などは、廃止された形です。

以前の状態は、任意団体同士の結合体であり、協会本部の規約は、一体的な組織運営と共通の会員資格が前提になっていました。

それでは、何が変わり、何が変わらないのかを、簡単に見てみましょう。

① 会員の資格

かつては、本部協会会員になると自動的

に在住地区の会員にもなる、という形でした。法人化以降は、新規の社団法人入会者（法律上は「社員」と呼びます。）は、必ずしも地区会員となることはありません。何故ならば、社団法人と各地区の協会とは、全く別個の団体であり、それぞれ独立したものであるからです。従いまして、新規の入会者には、いちいち、お住まいの地区協会の会員にもなるか否かの確認をしていただく必要があります。会員個人が、その選択権を有しています。また、各地区に於いては、独自の地区会員という資格を与えて地区固有の活動に参加出来る会員資格者を募集する事が、認められるようになりました。

② 社団法人規約と地区協会の規約

かつては、大枠で協会の組織全体を規定する規約があり、個々の地区協会にもそれぞれの地区協会規約が存在していました。一例として、地区の会長や事務局長の就任については、協会本部の規約の中で、年齢制限を謳っておりました。今後は、そのような制限は一切無くなりました。地区独自の判断と決議方法によって、当該地区の規約を決めていただきます。

③ 地区活動への助成

端的に云えば、各地区協会は、社団法人

人と友好的に提携をしていただく団体であり、その為の契約を、全ての地区協会と締結することを予定しています。従いまして、従来の「地区助成金」は、原則的には存続して行きますが、嘗てのように、協会本部から一方的に助成金を差し出すことは、今後は出来なくなりました。形式的には、先ず地区協会側から一定の原則に基づき助成金を申請し、それを受けた社団法人側では、前記の契約に基づき支払いを実行するというプロセスを執らねばなりません。その為にも地区には是非共、正確で信頼性の高い地区会員名簿（社団法人会員〇〇名、地区独自の会員〇〇名）を備置していただく必要があります。

④ 共通の目的たる、現代俳句の振興

この点は、法人化前でも後でも、全く不変です。社団法人と各地区協会は、共に手を携えて、この目的の為に注力することが求められております。地区協会の繁栄が、すなわち社団法人の未来に繋がります。七十年以上の歴史を有する現代俳句協会には、「俳句自由」という壮大なモットーがあります。会員個々が、互いの俳句を尊重し自由闊達な俳句活動を継続して行くことが、日々の活動に求められていることには変わりありません。



GH 現代俳句協会
MODERN HAIKU ASSOCIATION

蒼年部の活動

青年部を卒業した五十〜六十代の会員の勉強・交流を目的としています。十代から七十歳まで、幅広く参加を募っています。会員外もどうぞ。

当面、偶数月の第三土曜午後には句会を開催します。第一回は四月十五日に名古屋市公会堂、集会室にて行われ、十八〜七十歳の十二名が参加。世代や考え方の違いを越えて、刺激的な意見交換の場となりました。句会終了後の二次会も俳論飛び交い、熱い一日でした。

★第二回句会

六月十七日（土）

★第三回句会

八月十九日（土） 十三〜十六時半
場所未定

★会費五百円（当日徴収）

★三句（当季雑詠）短冊に書いて持参

★連絡先 有本仁政

hi_tomasa@wd.biglobe.ne.jp

090-4850-0264

第十五回 鈴木しづ子顕彰会

小中高生「いのちの俳句大会」開催

九月九日（土）午後一時に犬山市民文化会館にて開催されます。投句応募期日が七月十五日に迫っています。お急ぎを！
応募先

484-086犬山市大字羽黒二日町五十七番

鈴木しづ子顕彰会事務局

宮地瑛子 宛

☎ 0565-167-9325

東海地区現代俳句協会

明和町齋宮吟行句会

いつきのみや地域交流センター

5月21日
84名参加

◆大会賞

梅檀の花こぼれ落ち京とほし 加藤 美名

◆二位〜十二位 (十二位は同得点六名)

レプリカの土器は火の色青葉風 福林 弘子

復元の道まつすぐに夏つばめ 村田佐和子

踏むな踏むなたんぼが絮飛ばしあふる

齋王の系譜となりぬ糸蜻蛉 伊藤 政美

齋王の系譜となりぬ糸蜻蛉 福林 弘子

今日 いちいち自由な私サングラス

安心の高さで鳴けり夏ひばり 神田ひろみ

鳴くもののみな鳴き齋野の夏は 村田佐和子

十二単の齋王毛虫はたきおり 成木 幸彦

爆音のなき大空や揚雲雀 大西 健司

都まで続く大空花樽 田端 恵子

飛ぶもののみな影の濃し夏野かな 川合いつ子

群行もさもありなんや蟻の列 津矢田豊子

夏ひばり皇女の歌碑を読むやうに 平賀 節代

野花菖蒲ここに皇女の悲話幾つ 前田 典子

ふりむけばとほき都や花あふち 前田 秀子

浅き谷深き谷あり祇川 神田ひろみ

菊山 千月

◆選者特選賞作品

伊藤 政美 選

あめんぼう跳んだつもりが流さるる 上村えつみ

永井江美子 選

齋王の系譜となりぬ糸蜻蛉 福林 弘子

武馬久仁裕 選

復元の道まつすぐに夏つばめ 村田佐和子

大西 健司 選

齋王の系譜となりぬ糸蜻蛉 福林 弘子

平賀 節代 選

夏雲になりたがってる齋宮跡 丹羽 知子

小津 由美 選

今日いちいち自由な私サングラス 神田ひろみ

前野 砥水 選

ふりむけばとほき都や花あふち 神田ひろみ

福林 弘子 選

爆音のなき大空や揚雲雀 田端 恵子

石川美智子 選

レプリカの土器は火の色青葉風 福林 弘子

大堀 祐吉 選

齋王のなみだの数や花あふち 有本 仁政

神田ひろみ 選

はじめてのなつかしくなる夏雲雀 松永みよこ

成木 幸彦 選

春の影夏の影ある齋宮址 原田 葉子

武藤 紀子 選

十二単の齋王毛虫はたきおり 大西 健司

横地かをる 選

都まで続く大空花樽 川合いつ子

今井 真子 選

齋王の系譜となりぬ糸蜻蛉 福林 弘子

田に餌を啄む雲雀番かな 山西 玉美

山から空へ風が伝へて夏が来る 菊本とし子

皇女歌碑天平の詩や聖五月 池田多恵子

広き野に齋宮模型夏きざす 高橋たき子

齋王の下りし径を夏燕 谷 和穂

正殿へ傾ぎて揃ふ紅の花 向井 泰子

齋王の涙のやうな花樽 田端 裕子

齋王の佇む気配どんど花 堀川 美子

古代米植はり齋野安らけし 堀田 忠村

わがせこと皇女歌碑あり夏の草 吉村 隆代

齋王の恋のゆくへや五月闇 海野さちこ

影の濃き齋宮址へと白日傘 坂中 徳子

旗立てて軽トラ去りし初夏の風 倉田 鈴子

礼拝の齋王宮址風薫る 宮田登世恵

足裏に草の感触昔宿 宮田かつこ

境なき齋宮址や風薫る 和田 芙美

鉄塔でつなぐ青空夏雲雀 上嶋 艶

まぼろしの齋王なるか花樽 北岡千恵子

薫風やガイドと巡る齋宮址 西根みえ子

遮断機のゆつくり上り薄曙光 野島 啓子

小桂は五月の風を孕みおり 飯田 晴久

政変の鬚負ふ輿を夏つばめ 永井江美子

みはるかす野に踏んでしまひしで虫よ 中谷 泰江

齋宮にむかし男も杜若 小林 三保

いにしへのいつきのみやの揚雲雀

青空は遠し空切る捕虫網 前野 砥水

悠久の蹴鞠の戻る業平忌 武馬久仁裕

おほばこの花の穂伸ぶる通学路 渡邊 淳子

反り屋根のいつきの宮に花菖蒲 岡田 泰代

電車来て白茅波立つ齋宮址 中瀬 礼子

東の間の逢瀬を隠す花あふち 桑垣内博子

故郷は近くて遠き花菖蒲 岡田真由美

夏雲雀今跳びたくて鳴きたくて 西田 順子

遮断機で向き変へにけり夏燕 田中 裕子

胸にくる風もむらさきどんど花 浜西 修

齋宮の祈りの皇女よ花菖蒲 長谷田公子

郷愁の奥へ奥へと麦の秋 前森まゆみ

齋王の秘めし言の葉あふち咲く 伊藤 昌子

万緑や小桂に古の香りあり 森本 香子

咲き継ぎて咲き継ぎて齋宮の桜の実 南 ふみ

小津 由美

遙けしや草の匂ひて空は夏 竹内千賀子

平安の杜の陰りや河鹿鳴く 野口 良恵

麦秋や酒の字浮ぶ墨書土器 岩間つとむ

夏ひばり神話の里に迷ひこみ 中瀬 朝子

齋王の歌碑への道や夏ひばり 南川 泰子

花菖蒲よく見るための橋渡る 大堀 祐吉

姫女苑いつきのみやは夢の跡 大竹 直子

麦秋や踏切の音鳴りやまづ 武藤 紀子

ト甲とト骨のひび蜘蛛の糸 金子 ユリ

業平の返歌大らかあふち咲く 林 みさき

風の香やいつきのみやといふ佳き名

齋宮の姿の見えぬ揚雲雀 岡井 敬治

麦の秋伊勢の国訪う予後軽し 岡本 千尋

太陽に飛び込んでゆく夏雲雀 近藤 綾子

浮世避け天地の神とハンモック 八木茂都子

貝覆ひ儂き恋を語る夏 増井 康子

平安の杜風を抱きて古代蓮 石川美智子

古の皇女も見つるか姫女苑 今井 真子

新緑の風を乗り継ぎ齋宮へ 古橋 智子

群行絵巻ぬけ出しようにゆく日傘 横地かをる

齋王の史跡の沃野麦熟る 林 和琴

てくてくと歴史マップに若葉風 林 英男

ひばり野となつてをりたる夏野かな 松本 正

花あふち咲いてますよと三重なまり 角野 弘子

蝶舞いて十二単のかなの恋 中村 誠一

前田 敏男

次年度吟行句会のご案内

江戸から三十八番目となる藤川宿で
令和六年五月十九日(日)開催。江戸
時代から紫麦が栽培され芭蕉の句碑も
あります。詳細は次会報で。

「爰も三河むらさき麦のかきつばた」

第19回 現代俳句東海大会

俳句大会

日時 令和5年10月29日(日)午後1時~午後4時30分
 場所 ウィンクあいち13階1302号室(名古屋駅より徒歩5分・ミッドランドスクエア隣)
 内容 入選作品発表・事前投句作品による講評・各賞発表・表彰(記念品贈与)

講演会

講師 大西 可織 氏 大杉谷自然学校校長/演題「自然体験と俳句」

大会作品募集要項

- 応募規定 二句一組千円。何組でも応募可。但し新作未発表作品に限る。二重投句不可。前書き不可。同封の投句用紙または200字詰原稿用紙を使用。1マスごとに楷書で書く。氏名(俳号)にフリガナをつけ、住所、電話番号、会員・非会員の別を記載。大会当日の出欠を明記。投句料は定額小為替(無記名)で必ず作品と同封の上郵送。
※大会には会員・非会員を問わず誰でも参加・投句できます。たくさんのご応募、お待ちしております。
- 送付先 〒515-0505 三重県伊勢市西豊浜町1466 大西健司方 俳句大会作品係
- 賞 大会賞、秀逸賞、佳作賞、選者特選賞
- 締切 **9月10日(土)当日消印有効**
- 懇親会 午後5時より懇親会開催(場所未定)/会費補助あり

問合せ先

〒516-0035 伊勢市勢田町851-6
 事務局 平賀節代
 Tel・Fax (0596) 25-6849
 Eメール setu1110@hi3/enjoy.ne.jp



吟行句会より
 齋王展示情景
 一部復元齋宮

永年会員、自薦句

(昭和十八~十九年生れ)

◆愛知県

- 腕白に腕白の父矢車草
 背伸びせよ反抗もせよ袋角
 昭和区 成木 幸彦
- 秋水に影置く我を忘れぬやう
 敗戦日しづかにシヤドーボクシング
 西尾市 中村 正幸
- 菜の花や只あおとおと波の音
 フルトのかるい息つぎ草青む
 千種区 横地かをる
- 卯の花や誰ーれも居ない村の寺
 浪花節に涙する人なき日本
 瀬戸市 くにたみつる
- 来し方を見つめておりぬ揚羽蝶
 気遣いの先へ先へと鉄線花
 安城市 石川美智子
- あの頃に戻れるのなら春山河
 白布のかくも重たし敗戦忌
 安城市 寺田 豊
- 門口の紫陽花ほめて回覧板
 バーベキューバイリンガルの薔薇の家
 知立市 荒井 浩子
- 象の鼻きりんの舌や風薫る
 母在れば母と食べたき草の餅
 中区 平松 澄子



レジェンド&バタフライ

約束も果たせぬままに早苗田に
 紫陽花や葉書一枚に泣きどうし
 安城市 近藤 好子

湿りたる耳の捉へし花の雨
 淋しさの重なり合うて花の屑
 犬山市 宮地 瑛子

剥がしたき記憶や今朝の金瘡小卓
 トルソーの如き街路樹春は急
 田原市 別所 弘子

藤房の揺れに身を置く余生かな
 鳥曇杖より伝う地の吐息
 安城市 山口 正恵

一冊を抜きし書棚の冷え始む
 源流はしづく一滴山眠る
 名東区 原しよう子

投句未着者
 東区 小谷 隆子
 中区 小室ていこ
 緑区 山田和歌子

◆三重県
 梨剥いて水の立体取り出しぬ
 窓いつばいにトラックの胴冬来る
 津市 神田ひろみ

重文の山門潜る夏つばめ
 紫蘭揺れ立ち止まる人過ぐる人
 鈴鹿市 浜西 修

母の日や母のふる里地図たどる
 父の日や父のやふにはなれず老ひ
 四日市市 鬼頭 義和

投句未着者
 四日市市 生川 吉子

◆岐阜県
 病癒え老夫と連れ立ち夏帽子
 ドクターヘリ行き来す病舎にハクセキレイ
 岐阜市 吉村伊紅美

※掲載は投句葉書到着順

第二十五回東海地区現代俳句賞募

現代俳句界に新風を吹き込み、東海地区俳句活動の進展と充実を図るため、左の要領で作品を募集します。

応募作品

雑詠二十句（未発表に限る。受付後の作品変更は不可）

○B4縦書（紙サイズ厳守）

四〇〇字詰原稿用紙二枚使用

○一枚目「題名」「郵便番号・住所・電話番号・俳号（氏名）」二行置きに記載「年齢も明記」

○本年度より四十歳を区切りとした年代別二分割の審査とする。

○二枚目 一行目から作品を並記し、二十行目までに二十句収める。

※応募原稿は返却しない。

応募資格

東海地区現代俳句協会員

応募料 なし

締め切り 令和五年十月十日（火）

（当日消印有効）

送稿先 千五一六一〇〇三五 三重県伊勢市勢田町八五一―六

東海地区現代俳句協会事務局 平賀節代方「東海地区現代俳句賞」と朱記のこと。

TEL 0596-2516849

Fax 0596-2516849

Setu110@hi3.enjoyne.jp

頭 彰

東海地区現代俳句賞一名

賞状および賞金三万円

奨励賞・佳作 若干名

賞状と賞金

※定例総会席上にて授賞式

入賞発表 頭彰後発行する会報紙上

選考委員 会長が委嘱する地区役員

新規入会者、自薦句（直近三ヶ月入会者）

◆愛知県

赤まんま炊いて昭和を遊ぶ母 エッシーの無限階段春の昼

安城市 榊原美紀子

春の雨ハザードランプ静まれり

葉桜や濡れたベンチにアラベスク

刈谷市 堀内なづき

新樹光丑寅櫓隠しおり

一人居に届く声あり雨蛙

西尾市 辻村 明美

手をつなぎゆつくり母と春の水

春時雨猫のあくびとミルクティ

春日井市 小寺 トモ

下校する童の瞳五月晴

どくだみや白き花には御霊あり

稲沢市 道隆（塚本）

また一人逝きて種桶句ひける

鶉篝のこぼれて闇を揺らしをり

刈谷市 磯村 武司

傷ついた青年過ぎるさくらさくら

静止したブランコ記憶が漕いでいる

安城市 徳丸 魁人

春日井市 大室 敬梧

春日井市 狛犬 山城

北名古屋 佐藤 灯

春日井市 赤城 兼定

春日井市 東 凜

◆岐阜県

こころにも匂ひが欲しき朴の花

峠には峠の名前桐の花

美濃市 岩見三七夫

恵那市 市岡 亮祐

各務原市 早川 怜奈

◆三重県

筆塚の幣を揺らせる若葉風

格子窓続く街道若楓

伊賀市 藤岡 典子

花閉じて秘密を守るチューリップ

緑陰に入り直して立ち話

津市 奥山 尚美

◆神奈川県

回転窓くるりと返し夏つばめ

さくらんぼ幸せ色を手のひらに

横浜市 壺井（杉浦）千尋

※掲載は投句葉書到着順



会長のひとりごと

現俳協の法人化に伴い東海地区も独自の会となりました。そこで変わった事が一つあります。

もう高齢だから俳句を止めようかと考えている人は、ぜひ思い留まって下さい。毎月の雑誌は届きませんが、年会費二千円で地区の全ての行事に参加できる「地区独自会員」ができたのです。

日々の暮らしや自然の美しさに感動することを、諦めないでほしいのです。

その為の地区独自の会員です。できる事だけで良いから共に俳句を楽しみましょう。

第60回 現代俳句全国大会

本年度大会は協会の一般法人化と第60回記念として実施され、協会員外も参加できます。ご応募をお待ちしています。

□投句料3句一組・2千円〔3組9句同時投句限定、6千円を5千円〕何組でも可、新作未発表限定。所定用紙使用。

□締切 七月三十一日必着

□送付・問合先 〒101-0021東京都千代田区外神田6-15-4 借楽ビル外神田7階 一般社団法人 現代俳句協会全国大会係

TEL 03-3839-8190

□賞 大会賞、特別選者賞、秀逸賞、他。

□顕彰 句誌『現代俳句』等に掲載。

□全国大会 令和5年11月3日（金・祝）午後一時より「東天紅」

〒110-8707 東京都台東区池之端1-4-1

□記念講演 赤坂憲雄先生（民俗学者）

□懇親会 午後五時より（会費8千円）

□詳細 『現代俳句』四・六月号記載

◆会報七十七号に左記誤りがありました。

☆五頁下段の作者名が誤りでした。訂正し各位に深くお詫び致します。

「痛哭の民よ暖取る火はあるか」

伊藤昌子 ↓ 田中の小径

☆六頁の句会準備は岐阜県 ↓ 三重県

☆八頁の最下段 小津由美 ↓ 小津由実

東海地区現代俳句協会会報 第七十八号

令和五年六月三十日発行

発行者 永井 江美子

編集 前野 砥水

印刷 名古屋市中村区猪之越町三十一-五

事務局 平賀 節代 方

三重県伊勢市勢田町八五一-六